

2022年度(令和4年度)  
事業計画書

自 2022年4月1日  
至 2023年3月31日

公益社団法人日本ボート協会

## [2022年度(令和4年度)事業方針]

本会創立100周年を機に策定した「日本ボート協会2020ビジョン」をベースに、各委員会の中期事業計画を昨年度末に策定した。そのスタートとなる今年度はそれぞれ計画した諸事業において具体的かつ確実な前進とその成果をあげていきたい。加えて、2020東京オリンピック・パラリンピックの競技会場であった「海の森水上競技場」のレガシー活用計画の第一歩として、5月に「第100回記念全日本選手権大会」、10月に「TOKYO2020開催記念レガッタ」を同会場で開催する。

### 1.「日本の地域社会でボート競技の普及を図る」に関する事業

国内に楽しく安全なローイングの機会を提供することにより、ローイング人口の増大を図る仕組みを構築する。また、「パラローイング」「インドアローイング」及び「コースタルローイング」の普及も含めた広範囲に亘る推進策を継続するとともに、都道府県ボート協会ならびに全国ボート場所在市町村協議会との連携をさらに強め、各地域における普及活動支援を強化する。

### 2.「ボート選手の育成・強化を行い、競技力の向上を図る」に関する事業

選手強化活動においては地元開催のオリンピックで初のメダル獲得には届かなかったが、2024年パリ大会を目指して新たなスタートの年となることから、強化体制の充実・強化を進める。加えて、オリンピックにおける軽量級種目がなくなる可能性があることから、2028年のロサンゼルス大会を見据え将来に向けたオープン種目およびスweep種目の強化を更に推進する。

また、中長期的視点に立ちジュニアからシニアまで持続可能な国際競技力向上に向け、タレント発掘育成事業の更なる充実と6年目を迎えるJOCエリートアカデミー事業も継続する。

### 3.「ボートの全日本選手権大会及びこれに準ずる競漕会を開催する」に関する事業

今年度は5月の全日本選手権大会をはじめとして11大会を本会主催大会として開催する。前述の通り全日本は「海の森水上競技場」での初の国内大会となるため、今後の同会場による大会開催ノウハウの蓄積と東京都および指定管理者との良好な協力関係を構築する。

### 4.「日本代表チームの役員と選手を選定し、国際競漕大会へ派遣する」に関する事業

長引く世界中の新型コロナウイルス感染拡大の影響により、国内合宿等の強化活動の実行がままならない環境が続く見込みであるが、状況を慎重に見極めながら各世代の世界選手権を中心に選手団を派遣する。

また、本年度はJOC派遣大会であるアジア競技大会（9月：中国・杭州）およびワールドユニバーシティゲームズ（6月：中国・成都）が開催されるが、両大会へも選手団を派遣する。

### 5.「ボート競技の諸規則・諸規定の制定及び競技用具の審査と検定」に関する事業

100周年記念事業の一環として昨年4月に発効した競漕規則・細則（改定版）については、国際ボート連盟（World Rowing）の改定に合わせ都度見直しを実施する。

また、ボートコースの新規・更新認定業務を都道府県協会、コース管理自治体などと協力して引き続き実施する。

### 6.「その他の重要な事業」

現状の本会の課題である財政基盤の確立を遂行する為、新たな収入策および既存収入源に関する根本的見直しの検討を行う。また、昨年度スポーツ団体ガバナンスコードの整備を行い審査を受けたが、更なる改善とガバナンス強化を推進する。

## [2022年度(令和4年度)事業計画]

### 1. 競技本部関係事業

#### (1) 競漕大会開催ならびに競技者に関する事業

##### ①競漕大会開催について

- ・今年度は主催大会として、以下の大会を開催する。

開催期日	大会名	開催地・コース
5月12日(木)～15日(日)	第100回全日本選手権大会	東京都江東区 海の森水上競技場
5月28日(土)～29日(日)	全日本マスターズレガッタ特別大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
7月2日(土)～3日(日)	第72回全日本社会人選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
7月23日(土)～24日(日)	第42回全日本中学選手権競漕大会	宮城県登米市 アイエス総合ボート ランド(長沼)
8月11日(木)～14日(日)	第70回全日本高等学校選手権競漕大会	愛媛県今治市 玉川湖ボートコース
9月8日(木)～11日(日)	第49回全日本大学選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
9月10日(土)～11日(日)	第62回オックスフォード盾レガッタ	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
10月1日(土)～4日(火)	第77回国民体育大会ボート競技会	栃木県栃木市 谷中湖特設ボート競技場
10月15日(土)～16日(日)	TOKYO2020開催記念レガッタ	東京都江東区 海の森水上競技場
10月21日(金)～23日(日)	第63回全日本新人選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
2023年 3月19日(日)～21日(火)	JOCジュニアオリンピックカップ 第34回全国高等学校選抜大会	静岡県浜松市 天竜ボート場

※全日本選手権大会は軽量級種目を含めて開催する。

##### ②インドアローイングについて

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で2年間開催を見送ってきたA大会(全国9ブロック)

およびB大会を開催する

- ・2022年度大会の成績優秀者をアジアインドア選手権大会に派遣する。
- ・新たなインドア大会の開催について検討する。

##### ③競技団体及び競技者について

- ・競技者規定に基づき、2022年度の競技団体及び競技者の資格決定を行う。
- ・2022年度の競技団体、競技者登録を行うとともに、当該年度の登録状況を把握する。

#### (2) コース認定に関する事業

今年度は以下の更新認定と新たに申請のあったコースについてコース認定を実施する。

・2022年度更新認定コース

都道府県	コース名	級	距離 (m)
富山県	富山県漕艇場	B	1,000
富山県	南砺市宮桂湖ボート場	B	2,000
岩手県	錦秋湖漕艇場	C	1,000
静岡県	天竜ボート場	B	2,000
愛知県	愛知池漕艇場東郷コース	B	1,000
兵庫県	円山川城崎漕艇場	B	1,000
和歌山県	美山漕艇場	C	1,000
愛媛県	玉川湖ボートコース	B	1,000

(3) 競漕艇の計測に関する事業

第77回国民体育大会、第70回全国高等学校選手権及び第34回全国高等学校選抜大会において競漕艇の計測業務を行う。

(4) 海の森水上競技場に係わる事業

- ①東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシー活用の一環として、今年度は同会場において「第100回記念全日本選手権大会」及び「TOKYO2020開催記念レガッタ」を開催する。
- ②また2024年春の海の森の本格的開業を見据え、大会利用・強化拠点・総合型地域スポーツクラブ設立に向けた施設整備および運用システム構築を関係先と連携し確立する。

(5) 審判に関する事業

①審判業務

・今年度本会主催および主管大会に審判長はじめ審判員を派遣し、大会審判業務をより円滑に行う。

②審判員養成事業

- ・国体及びインターハイ等の地方大会において円滑な審判団編成の為、C級審判を現在の1,562名から1,700名に底上げを図る。
- ・審判員養成を目的に次の研修会と認定試験を行う。

研修会名称	開催時期	開催場所
第91回審判員研修会 (B級審判員認定試験併催)	7月	埼玉県・戸田
第92回審判員研修会 (B級審判員認定試験併催)	10月	埼玉県・戸田

## 2. 強化本部関係事業

(1) 選手強化に関する事業

1) 基本方針

2024年パリオリンピックにおいて、東京2020オリンピックを上回る成果達成を目標に据えた新たなスタートとなる本年は、幅広い選手の育成と国際大会での決勝進出を果たすべくその支援体制を確立する。

2) 具体的活動

①国際競技力の向上

- ・実効性ある強化戦略プランの着実なる実行と PDCA サイクルの実践による選択と集中により強化スピードをこれまで以上に向上させる。

②オープンカテゴリー及びスweep種目の強化

- ・オリンピックにおける軽量級種目がなくなる可能性を考慮し、オープンカテゴリー強化を加速させる。

③次世代ナショナルコーチの育成

- ・選手強化と両輪でナショナルチームを支える次世代コーチを計画的に育成するシステム整備に取り組む。

④選手所属団体との連携と関係強化

- ・強化ビジョンの共有とコミュニケーションの質量両面の増大により更なる関係強化を図る。

3) 強化合宿および海外派遣

今後の内外の新型コロナウイルス感染状況等を勘案しながら、以下実施する。

① 国内強化合宿

実施月	事業名	開催予定地
5月	強化合宿	調整中
7月	強化合宿	埼玉県・戸田
8月	強化合宿	埼玉県・戸田
11月	強化合宿	埼玉県・戸田
12月	強化合宿	埼玉県・戸田
2023年1月	強化合宿	埼玉県・戸田
2月	強化合宿	埼玉県・戸田
3月	強化合宿	埼玉県・戸田

② 国際大会派遣および海外強化合宿計画

時期	事業名	開催地
6月	ワールドカップⅡ	ポーランド・ポズナン
6月	フランス合宿	調整中
7月	ワールドカップⅢ	スイス・ルツェルン
8月	アジア競技大会	中国・杭州
11月	世界選手権	チェコ・ラシチェ

③ JOC次世代

実施月	事業名	開催予定地	対象選手
6月	スロベニア遠征	スロベニア・ブレド	ジュニア
7月	U19世界選手権事前合宿①	未定	ジュニア
7月	U19世界選手権事前合宿②	未定	ジュニア
7月	U19世界選手権	イタリア・バレーゼ	ジュニア
10月	アジアジュニア事前合宿	未定	ジュニア

10月	アジアジュニア選手権	中国・南昌	ジュニア
-----	------------	-------	------

(2) タレント発掘、及び競技者育成に関する事業

1) 基本方針

- ・国際大会においてメダル獲得のポテンシャルのあるアスリートを発掘するとともに、一貫指導の下に育成強化を継続する「アスリートパスウェイ」基盤の確立と定着を図る。

2) 活動方針

①タレント発掘活動の深化

- ・国内9地域との連携強化とメダルポテンシャルアスリート発掘チャンネルの深化・システム化を図る。

②J-STARプロジェクトの継続推進

- ・JSC委託事業によるタレント発掘の手立てとして戦略的活用を継続する。

③JOCエリートアカデミー事業への参画

- ・財政基盤を整備しつつ事業を継続し、育成パスウェイの一つとして活用する。

④U19/U21/U23育成強化

- ・長期ビジョン「アスリートパスウェイ」に基づき次世代アスリートの育成強化を図る。

3) 具体的活動

①メダルポテンシャルアスリート (U23・U21) 国内育成合宿計画

実施月	事業名	開催予定地	対象選手
4月	MPA育成合宿	福井県・久々子湖	WUG・U23・U21
5月	MPA育成合宿	福井県・久々子湖	WUG・U23・U21
6月	MPA育成合宿	福井県・久々子湖	WUG・U23・U21
7月	MPA育成合宿	福井県・久々子湖	U23・U21
8月	MPA育成合宿	福井県・久々子湖	U23・U21
11月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23・U21
12月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23・U21
1月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23・U21
3月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23・U21

②JOCエリートアカデミー事業及びタレント育成

- ・JOCエリートアカデミーは今年度、新たに1名が選任、1名が修了し計3名となる。
- ・国内育成合宿計画

実施月	実施事業	開催地	対象選手
4月	タレント育成①②	福井県・久々子湖	タレント・EA
5月	タレント育成①②	福井県・久々子湖	タレント・EA
6月	タレント育成	福井県・久々子湖	タレント・EA
7月	タレント育成①②	福井県・久々子湖	タレント・EA
8月	タレント育成①②	福井県・久々子湖	タレント・EA
10月	タレント育成	福井県・久々子湖	タレント・EA
11月	タレント育成	福井県・久々子湖	タレント・EA

12月	タレント育成	埼玉県・戸田	タレント・EA
12月	U19有望選手発掘	長崎県・本名川	U19有望選手
1月	タレント育成	埼玉県・戸田	タレント・EA
1月	U19有望選手発掘	熊本県・班蛇口湖	U19有望選手
3月	タレント育成	埼玉県・戸田	タレント・EA

・海外遠征計画

派遣月	大会名及び合宿名	開催地	対象選手
5月	ワールドカップ第2戦	ポーランド・ポズナン	MPA・育成選手
6月	Bled国際レガッタ	スロベニア・ブレド	MPA・育成選手 タレント
7月	世界選手権 (U19/U23)	イタリア・ヴァレーゼ	MPA・育成選手
3月	Sydney国際レガッタ	オーストラリア・シドニー	タレントA・EA

(3) 医科学に関する事業

新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえ、より安定的な医療従事者の確保及び協力関係を確保し、円滑な大会運営医療業務、強化合宿、海外遠征および日常トレーニングを通じた強化活動に貢献する。

①メディカルサポートに関する事業

- ・本会の主な主催大会（全日本選手権、全日本社会人選手権、全日本大学選手権及び全日本新人選手権）に医師ならびに看護師を派遣し、救急医事業務を行う。
- ・国内強化合宿、海外強化合宿および海外大会へ、医師並びにトレーナーが帯同し選手のコンディショニング維持、改善および指導を行う。
- ・コンディショニングに関する知識を普及するために、指導者と選手を対象に随時講習会を開催し、またホームページを利用した広報活動を行う。

②コロナ禍における活動

- ・開催期における新型コロナウイルス感染症の状況に応じ、各大会における新型コロナウイルス感染症対策計画をタイムリーに立案する。
- ・大会前後及び開催期間中における対応体制を取るとともに大会関係者に対する感染症指導及び管理業務を行う。

③競技用具の審査と検定に関する事業

- ・本会の規格艇登録規定に基づき、規格艇の審査、および原簿登録に係わる業務を行う。
- ・第77回国民体育大会、第70回全国高等学校選手権、および第34回全国高等学校選抜大会において競漕艇の計測業務を行う。

(4) アンチ・ドーピングに関する事業

日本アンチ・ドーピング機構（JADA）が指定して行う国内大会におけるドーピング検査を受け入れるとともに、強化指定選手中心から対象を更に拡げ、アンチ・ドーピングに関する教育及び啓蒙の強化を図る。

①ドーピング検査受入

- ・JADAが指定して行うドーピング検査を受け入れるとともに合わせてサポート業務を行う。

②ドーピング防止啓発活動

- ・強化指定選手（パラローイングを含む）を対象としたWEBによるアンチ・ドーピング研修会の実施。
- ・U19及びU23代表選手へのアンチ・ドーピング研修会の実施。
- ・各地の大会（朝日レガッタや国体地区予選など）におけるアンチ・ドーピング研修会の実施。
- ・アウトリーチ活動の実施～全日本選手権、全日本新人、朝日レガッタ開催時に計画。

(5) 指導者育成に関する事業

①公認スポーツ指導者養成事業

公認資格指導者の人数増と質の向上を目指し、日本スポーツ協会助成事業による公認コーチ1、および3養成講習会について今年度は以下の日程で講習会を開催する。

また新型コロナウイルス感染症拡大を踏まえ、オンラインによる講習会も実施する。

講習会名	開催日程	開催場所
公認コーチ3養成講習会	前期：10/8（土）～10（月） 後期：11/4（金）～6（日）	埼玉県・戸田市
公認コーチ1養成講習会	前期：6/25（土）～26（日） 後期：11/26（土）～27（日）	埼玉県・戸田市
資格更新義務研修	未定	中日本レガッタ
	未定	朝日レガッタ
	未定	・高体連3地区 (東地区・中地区・西地区) ・都道府県体協主催研修 ・都道府県ボート協会主催研修
資格更新義務研修補助	5～6ヶ所	
インストラクター講習会補助	2～3ヶ所	

(6) アスリートに関する事業

以下事業を着実に実行し、アスリートの視点に立った提言及び関係事業へ参画する。

①トップアスリートの意見を集約し協会諸事業に反映

- ・各委員会より適宜諮問される諸事項についてアスリートの意見を集約し、アスリートファーストならびにアスリートの環境改善につながる提言を積極的に行う。
- ・強化合宿等の強化活動に関するアンケートを集約し、環境改善につながる提言を行う。

②本会主催諸事業に協力しボート競技の普及と発展に貢献

- ・ボート競技ならびにアスリートの地位向上のため、2024年パリオリンピック・パラリンピックに向けた広報活動や講演活動に積極的に参画する。
- ・スポンサー企業の協賛活動に積極的に参画する。
- ・サステイナブルな社会に貢献するため、ボート水域の自然環境を改善・維持する活動を



安全環境委員会と協働して企画し、大会開催時等を実施する。

③日本代表コーチ育成活動

- ・代表コーチを目指す人材の拡大を目標とした「ナショナルコーチ体験プログラム」をオリンピック周期で定期的実施する。
- ・ナショナルコーチ体験プログラム参加者のスキルアップを目的とした育成プログラムを定期的実施し、ナショナルチームに人材を送り込める体制を確立する。

④トップアスリートのセカンドライフの支援

- ・トップアスリートが引退後も継続的にボート競技や協会の活動に携われるようサポートを行う。

### 3. 普及本部関係事業

#### (1) 普及に関する事業

①総合型地域スポーツクラブ（SC）の設置及び既存クラブ活性化の支援

- ・各都道府県ボート協会及び全国ボート場所在市町村協議会と連動し、全国主要水域のボート普及環境の整備の一助とする。

②ジュニア層のボート人口増及び活動支援

- ・中学生および高校生のボート競技振興を図るため、全国中学校ボート連盟および全国高等学校体育連盟ボート専門部の活動に対し、助成金交付と支援を継続して行う。
- ・とりわけ、中学生のボート人口拡大に向けたアプローチを実施する。

③海の森水上競技場レガシーにおける普及活動

- ・海の森水上競技場のレガシー活用の一環として東京都ボート協会が設立を目指す総合型地域スポーツクラブ（SC）の設置を支援する。
- ・競技普及の目的でTOKYO2020開催記念レガッタを海の森で開催する。

④オリンピックの会に関する活動

- ・JSC助成事業として、ボート競技普及を目的に「オリンピックとエルゴファイト」を海の森水上競技場ほかで行う。

#### (2) 広報に関する事業

国民へのローイング機会拡大のため、広範に適時適切な情報発信を行う。

① より魅力的な協会広報誌「ROWING」の発行

- ・今年度は、本会機関紙「ROWING」を6回発行する。
- ・同時に内容の刷新と編集経費の見直しを図る。

② 本会ホームページの改善

- ・タイムリーな報告と強化関連を中心に掲載情報量のアップを図る。
- ・より見やすく検索しやすく発信しやすいとの観点から改善に向けランドデザインを検討・刷新する。

③ 報道機関、マスコミへの対応と協力

- ・普及及びスポンサー獲得のためのメディア露出を目的とした、情報配信をより積極的に行う。
- ・協会体制及びコースタルローイング等の情報発信を東京運動記者クラブはじめ報道機関

および出版業界との関係を密にし、報道を通じて本会の活動の広報に取り組む。

④ 情報源としての全国的サポートネットワークの作成

- ・ブロックリポーター制度を復活する。

⑤ 写真コンテスト「ボートのある風景」の実施

- ・新型コロナウイルス感染症の状況を勘案しながら適切に実施する。

(3) 安全環境に関する事業

以下の活動を通じて、ローイングの安全と環境保全に対する意識付けを適時行う。

① セーフティアドバイザー（SA4）制度の活性化と研修の実施

- ・全国のSAに対するオンライン会議の活用によるレベルの均質化を図る
- ・研修会の実施

事業名	開催日程	開催場所
セーフティアドバイザー研修	1月	埼玉県・戸田市
セーフティアドバイザー研修	2月	未定

② 各種ガイドライン及び規程類の策定整備とボート水域の環境整備

- ・ボート競技における環境ガイドラインの策定
- ・「安全マニュアル」の更新
- ・競漕規則及び細則の改定に合わせた改訂
- ・サステナブルな社会に貢献するため、ボート水域の自然環境を改善・維持する活動を

企画し、大会開催時等にアスリート委員会ほかと協働して実施する。

③ 海の森水上競技場での主催大会におけるレスキュー体制の整備

(4) コースタルローイングに関する事業

2028年ロザンゼルスオリンピックから新たに加わる可能性の高いコースタルローイングの日本に於ける基盤作りを継続するとともに、海洋国日本に相応しいコースタルローイングスタイルを確立し、持続可能な事業基盤を作るとともに競技及びレジャー性を持ったコースタルローイングの普及を目指す。

①水域及び拠点の開拓

- ・体験会及び主催大会の開催により国内各地における普及を図る。
- ・国内における普及拠点の確立～関東・中京・四国・九州地区

②安全対策

- ・危険性を伴う海のスポーツとして水難事故ゼロを目指し独自の対応策を策定する。
- ・GPSキットの導入を検討する

③コースタルローイング事業基盤の確立

- ・活動基盤確立のための独自方策を検討する。

## 4. パラローイング本部関係事業

### (1) 基本方針

- ・パラローイングの国内における普及拡大と、パラローイング事業基盤を構築する。

- ・2024年パリパラリンピックに向けた国際競争力を強化する。

(2) 基本計画

- ・国際競争力を強化し2024年パリパラリンピックへの複数種目出場と入賞を目指す。
- ・競技拠点について現在の相模湖漕艇場以外の拠点づくりを推進し競技の普及を図る。
- ・J-STAR等による選手発掘に努め、指定選手数を拡大する。
- ・コーチ、スタッフの増員により、サポートを拡充する

(3) 具体的活動

①国内合宿

実施月	事業名	開催予定地	対象選手
4月	4月強化合宿	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手
5月	5月強化合宿	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手
6月	6月強化合宿	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手
7月	7月強化合宿	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手
8月	8月強化合宿	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手
9月	9月強化合宿	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手
10月	10月強化合宿	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手
12月	12月強化合宿	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手
1月	1月強化合宿	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手
2月	2月強化合宿	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手
3月	3月強化合宿	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手

②国際大会派遣

新型コロナウイルス感染症の状況を勘案しつつ以下の国際大会に選手団を派遣する。

派遣期間	大会名	開催地
5月	国際パラローイングレガッタ	イタリア・ガヴィラーテ
9月	世界選手権	チェコ・ラシチェ
10月	アジアパラ競技大会	中国・杭州

③乗艇体験会の実施

- ・普及活動として、神奈川県相模湖等において乗艇体験会を実施する。

5. 管理本部関係事業及び独立委員会事業

(1) 国際関係事業

① 国際大会への審判派遣

今年度は以下の国際大会に審判員を派遣する。

World Rowing/FISU各種大会

大会名	開催国・開催地	期間	審判員 (Lic. No.)	所属協会
ワールドカップ第1戦	Belgrade セルビア	5月27-29日	山崎佳奈子 (1782)	東京

FISU世界大学選手権	成都・中国	6月30日- 7月2日	成田泰久 (1793)	東京
世界選手権	Racice チェコ	9月18-25日	中島大祐 (1627)	東京

ARF主催大会

大会名	開催国・開催地	期間	審判員(Lic.No.)	所属協会
アジアコースタル 選手権 アジアビーチ スプリント選手権	アラブ首長国連邦	未定 (10月)	*隈元幸治 (1371)	神奈川
アジア大会	杭州 中国	9月7-12日	*千田隆夫 (1230) 松田雅彦 (1614)	岐阜 神奈川
アジアパラ大会	杭州 中国	10月10-12日	*千田隆夫 (1230) 塚田秀樹 (1628)	岐阜 京都
アジアジュニア	未定 中国	10月13-16日	岩尾弘敏 (1476)	北海道
アジアマスターズ レガッタ	名古屋 日本	10月26-30日	大泉和久 (1231) *田畑喜彦 (1265) 竹内浩人 (1267) 隈元幸治 (1371) 岩尾弘敏 (1476) 田中真樹 (1541) 山崎佳奈子 (1782) 成田泰久 (1793)	福島 愛知 大阪 神奈川 北海道 静岡 東京 東京

\*：審判長

② World Rowing及びARF総会への代表者派遣

・各連盟の事業方針、各国動向等最新情報を把握するため下記総会へ代表者を派遣する。

会議名	会議日程	開催国・会場地
国際ボート連盟(WR)通常総会	9月26日	チェコ・Racice
アジアボート連盟(ARF)総会	9月 (未定)	中国・杭州

③ JOC国際人養成アカデミーへの受講者派遣

・昨年度に引き続き、将来国際ステージで活躍できる人材育成を目的に、受講生1名を派遣する予定。

④ 国際大会開催支援

・アジアマスターズレガッタ（愛知池）の10月28-30日開催が決定している。その開催に関する支援を実施する。

⑤ World Rowing及びARFにおけるポスト獲得

- ・World Rowing関係3名、ARF9名のポストの維持に加えて、2026年アジア大会開催国に付与される新たなポスト（ARF副会長）の人選を進める。

⑥ WR国際審判試験の実施

- ・アジアマスターズレガッタ（愛知池、10月28-30日）の直前にWR国際審判試験を実施し、新たに数名の国際審判の誕生を期する。

(2) 財政基盤強化に関する事業

①助成金について

- ・日本オリンピック委員会、日本スポーツ振興センター、戸田競艇事業者およびその他団体に対し当協会の諸事業の目的ならびに重要性について理解を求め、継続的且つ安定的な支援をお願いする。

②事業収入の見直しについて

- ・各種事業収入の単価等を見直し、2023年度以降の財政基盤の強化につなげる。

③マーケティング戦略の構築を検討

- ・JOCの新企画であるジョイントマーケティングに参加し、新たな協賛企業の獲得を進める。
- ・新ビジョンに基づき協会の事業価値を抜本的に見直してマーケティング戦略の構築を目指すと共に、中期的な財務計画を立案する。

(3) ガバナンス強化に関する事業

加盟上部団体（JSP0、JOC、JPSA）による本会のガバナンスコードの適合性審査では、要改善事項の該当はなしとの結果であったが、より一層の体制強化と徹底を図る。

①公益法人に関する業務の推進

- ・公益法人として協会運営を行うために、必要な各種規定類の更なる整備をするとともに、その他の関連業務を継続して実施する。

②コンプライアンスおよびインテグリティの徹底

- ・強化の現場および協会役員に対するコンプライアンス及びインテグリティ教育について、JOC等主催の研修会ならびに講習会参加による啓蒙活動を継続する。
- ・本会の「協会弁護士による研修会」制度を所属団体等に働きかけ活用を促す。

(4) 100周年記念に関する事業

新型コロナウイルスの感染症拡大のため延期となっている「記念式典・祝賀会」については感染状況を見極めながら開催のタイミングを決定する。

(5) 企画戦略に関する事業

- ・「新ビジョン」の推進・実現に向けて本会の現状分析と課題を整理し、各委員会とも連携しながら中期事業計画の横断的進捗管理を図る。また、併行して中期事業計画の精査および軌道修正など本会の方向性に関し提案する。
- ・スポーツ・インテグリティ（誠実性・健全性・高潔性）推進にむけて、各委員会との情報交換を密に行い重要性の周知を徹底する。
- ・海の森水上競技場におけるレガシー推進計画の企画・立案および関係先との調整を図る。

以上